

IV-25

道の駅「小町の郷」の整備に対する住民意識について

秋田大学 学生員 ○佐藤 敦
 秋田大学 フェロー 清水浩志郎
 秋田大学 正 員 木村 一裕
 建設省東北地方建設局 安田 佳哉

1.はじめに

道の駅は、一般道路の休息施設として「休暇・情報交流・地域連携」を共通のコンセプトとした新しい道路施設の概念である。東北地方でも平成10年4月現在で68箇所が登録されており、今後さらに整備が行われていくことも予想できる。しかし、その整備手法は全国的に均一であり、今後は特色ある道の駅の整備が求められることになり、環境を配慮した施設なども重要となる。

そこで道の駅「小町の郷」は、全体的なイメージを「森の中の道の駅」とし、環境に優しい施設を目指し建設されている。しかし、このような道の駅を建設するには建設費用・維持管理費用が多くなることになる。そこで本研究では道の駅建設に伴う地元住民の意識、CVM（Contingent Valuation Method：仮想評価法）を用いて地元住民の支払意額を明らかにし、地元住民の考える道の駅「小町の郷」の価値を評価することを目的としている。

2.調査概要

今回、調査を行った秋田県雄勝町は、秋田県の南の玄関口にあたり、栗駒国定公園の入り口でもある。道路網整備としては、国道108号鬼首道路の開通、湯沢横手道路の雄勝町までの延伸計画があり交通拠点としての重要性が増している。本研究の調査は道の駅建設に伴う住民意識を明らかにするため雄勝町町民を対象に行った。そのアンケート調査の概要は表1に、道の駅「小町の郷」の概要と特徴は表2に示す。

3.「町民の森」内の記念植樹について

道の駅「小町の郷」では、さらに樹木を植樹し「町民の森」を作る計画がある。これは地元住民に植樹してもらい自分たちの道の駅だという認識を強く持ってもらうためでもある。町民自身が苗木を用意し、植樹することについて質問した。その結果を

表1-アンケート調査の概要

調査対象	秋田県雄勝町町民
調査期間	平成10年12月
調査項目	性別、年齢、居住地区、職業、道の駅利用頻度、建設費・維持管理費負担について、記念植樹について、道の駅建設に伴う地域活性化の評価など
回収率	44.8%（配布500、回収224）

表2-道の駅「小町の郷」の概要と特徴

路線名	国道13号
施設面積	14000㎡
駐車場面積	8500㎡
供用開始時期	平成11年4月（現在は一部供用）
特徴	○全体のイメージは「森の中の道の駅」 ○駐車場内に高木を植樹することにより・木陰に覆われることによりアイドリングをストップさせる ・寒暖、乾湿等の変化を緩和する ・未舗装地を増やし雨水を浸透させ、気化熱の発生、照り返しを防止する ・交通騒音低減、大気浄化等環境への影響を緩和する ・地域の特徴的な四季を体感できる ○主要施設は「小野小町」をイメージ

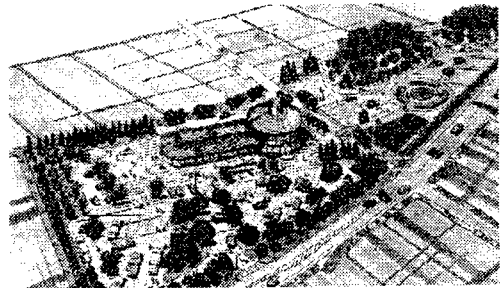


図1-道の駅「小町の郷」イメージ図

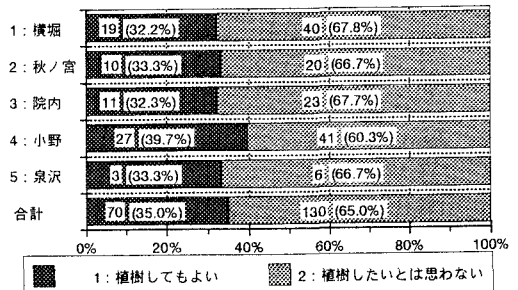


図2-記念植樹について

図2に示す。全体で35.0%の人が「植樹してもよい」と回答している。また、道の駅「小町の郷」が建設される小野地区での記念植樹に対する関心が高いことが明らかになった。

4.道の駅建設に伴う地域活性化の評価

道の駅「小町の郷」建設に伴う地域活性化の評価に影響を及ぼす要因を明らかにするため、数量化理論Ⅱ類を適用した。表3はその結果である。外的基準とアイテムのカテゴリーは「非常に役立つと思う」「役立つと思う」「役立たないと思う」の3段階評価とした。記念植樹についての回答別に分析を行ったところ、「植樹してもよい」と回答した人の場合、偏相関係数により説明力の高いアイテムは「情報交換・交流の場」であった。一方、「植樹したいとは思わない」と回答した人の場合「商業活動の場」のアイテムの説明力が高くなっている。なお、7)住民のレクリエーションの場、8)子供の遊び場は「非常に役立つと思う」という回答が得られなかったため分析から除外した。この結果から「情報交換・交流の場」「商業活動の場」が地域活性化に影響を及ぼすことが判明した。このように植樹という道の駅への関わり方への態度が道の駅に対する期待の違いとなって現れていることがわかる。

5.道の駅の維持管理費の地元負担について

道の駅駐車場内に高木を植樹することはアイドリングを抑制させ、利用者により良い休息を与えるものであるが、維持管理に一層の労力と費用を必要とする。そこで町民に維持管理費を地元住民で負担することについての賛否を質問した。その結果を図3に示す。回答者全体の34.0%が「賛成」しており、平均で年間当たり3901円の負担はやむを得ないと考えていることが明らかになった。年齢階層ごとにみると賛成者の割合は10・20代で一番高く40.0%、支払意志額は30代が一番高く8342円となっている。これらの結果により比較的若い年齢層が道の駅の維持管理に協力的であることが判明した。

6.まとめ

本研究より次のことが明らかになった。

- ①道の駅「小町の郷」が建設される小野地区の住民が他地域に比べ記念植樹に対する関心が高いこと

がわかった。

- ②道の駅「小町の郷」建設に伴う地域活性化に影響を及ぼす要因は「情報交換・交流の場」「商業活動の場」であることが明らかになった。

- ③道の駅の維持管理費を地元住民が負担することに賛成している人は全体で34.0%、年齢階層別にみると10・20代の賛成者の割合が高く、30代の支払意志額が高い。

今後の課題としては、道の駅「小町の郷」の利用者に対する意識調査と供用後の雄勝町住民の意識の変化の調査を行いたいと考えている。

本調査の実施にあたっては、尚徳館（会長：木村剛氏、雄勝町）のご協力をいただいた。ここに記して謝意を表します。

表3—数量化Ⅱ類による分析結果

アイテム	植樹してもよい		植樹したいとは思わない	
	カテゴリ数量	レンジ	カテゴリ数量	レンジ
1)商業活動の場	-0.3609 0.2246 -0.4152	0.6398	0.3276 -1.5901 0.3249	1.9150 -0.1723 0.3249
2)雇用の場	0.1707 0.0162 -0.0897	0.2604	0.0717 0.2630 -0.0371	0.3001 0.0868 0.0280
3)情報交換・交流の場	0.2207 0.2740 -0.6503	0.9243	0.4305 -0.0658 0.0502	0.4888 0.1206 0.0502
4)新しいまちづくりの核	0.1378 0.1483 -0.2998	0.4480	0.2246 -1.5458 -0.0573	1.7352 0.2917 -0.1894
5)町のイメージアップ	0.2371 -0.0626 -0.0509	0.2998	0.1125 -0.4484 -0.1381	0.8891 0.2943 -0.1381
6)情報発信の拠点	0.4862 0.0096 -0.0942	0.5804	0.1641 -0.5132 0.0582	0.6188 0.1107 0.1055
7)住民のレクリエーションの場	-0.0466 0.2543 -0.3385	0.5928	0.2896 0.0618 -0.0586	
8)子供の遊び場	0.0455 0.0573 -0.0586	0.1159	0.0618 -0.5539 -0.1045	
9)外食の場	0.0268 0.0066 -0.0629	0.0897	0.0301 -0.1045 0.7175	1.2715 0.4087 0.7175
外的基準	1.2919 0.2761 -1.4189		-4.7544 -0.4308 0.9698	
道の駅建設に伴う地域活性化の評価				
相関比	0.6369		0.6293	

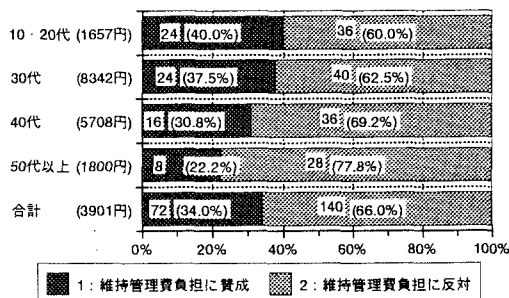


図3—維持管理費の負担について
注：年代のあとの（ ）内は平均支払意志額